

「Harrison's Principles of Internal Medicine」

Edited by Robert G. Petersdorf, et al

東京大学医学部助教授

黒 川 清

ハリソンの内科書の第10版が出版された。内科学の世界的な教科書であり、内科医であれば、まずその一部でも目を通さなかった人はいないはずである。私は学生のころ、また入局したところにハリソンの第3版を手にしてその膨大さ、字の細かさに圧倒された記憶がある。また、もっと近年では第6版を全部読んだことを覚えているが、それ以後も第8版を買い求めている。初版以来30年余になるが、特に第7版以後は3年ごとに改版されている。これは並大抵のことでできることではなく、編者・著者の努力に頭が下がる。

この改訂第10版は6部45節に分かれ、その下に377章が配分されている。これは旧9版の383章より少ないが、これは主として第4部感染症、特に第9、10節の真菌症、リケッチア感染症を新しく大別し直したことによる。新版の構成には各所に新しい配慮がなされており、また内科学の進歩に伴って必要な新しい章が加えられている。構成については、内分泌学、腫瘍学をまとめて、各臓器別各論を扱った第6部から、代謝総論、代謝疾患などを扱った第3部に移してあるのは適切な処置であると思われる。また、ホルモン受容器と情報伝達系総論と、各論とし

てアデニルシクラーゼ系の章が新たに加えられている(第3部6節)。また、プリン体代謝異常とB₁₂、T₁₂リンパ球異常による免疫不全症に関する章(第95章)も新しく加えられている。

適切な話題としては、老人病学に関する章が加えられていることで(第3部4節)、加齢の生物学、老人の健康管理に関する2章が設けられており、今日の問題点をよくとらえて up-to-date に対処している。また、遺伝子工学と内科学(第59章)の加えられているのもまことに時期を得ている。

新しく加えられた章を除けば、著者は大部分は9版と同じであるが、幾つか著者の交代がみられる。新しく editor に加わった Harvard 大学の Dr. Martin による睡眠とその異常の第19章は、同じく editor をつとめる同じ Harvard 大学の Dr. Adams の旧章に全く替わる新しいもので、よく書き込まれている。サルコイドーシスの章(第235章)も書き換えられている。

近年、性モラルの変化と共に新しい問題が提供されてきているが、この点で“sexually transmitted diseases”(第143章)は著しく手が加えられている。特に、新しいチャー

トが幾つも加えられていて極めて明快な好章である。これは、同著者による新しく加えられた次の第144章の骨盤内炎症性疾患と共に大変参考になる。

私の専門の腎臓病学は、旧版と同じく Harvard 大学の Dr. Brenner が中心になって書いているが、各章とも必要な事項が漏れなく、しかも簡明に書かれているのに好感が持てる。この改版でもすべて同じ著者によって同じ配分で書かれていて、大きな改訂はなされていないが、随所に手が加えられていて実に丁寧に、親切に書かれている。例えば、第294章の糸球体腎炎でも、私どもが講義に多用するのと同様のネフローゼ症候群に関する新しい表(表294-4)が加えられており、そのほかにも細かい配慮(例えば表295-1)がなされていて著者の心配りが感じられる。

そのほかにも、内科医が臨床に必要な精神病である neurosis, affective disorders, 精神分裂症の3つに関する章が新たに加えられている(第375-377章)。また一般に、引用文献が内科学の進歩を現して、各章とも少しずつ増えている傾向があるのも良い。

各種疾患の頻度、発病形態などには米国と本邦では違いのある点もなくはないが、やはり本書は内科学の代表的教科書であり、日常の診療、内科学の研修、進歩に当たるすべての内科医の方々に折に触れ、また頻回に、本書の内容に目を通し、愛読されることを広くお勧めしたい。

2,240 pp. 383 figs. 10th ed. 1983

One-vol. ed.: ¥ 28,870

Two-vol. ed.: ¥ 35,140

McGraw-Hill Book Company,
New York

日本総代理店 医学書院洋書部